

博多の伝統芸能

博多芸妓の世界

九州国立博物館 ミュージアムホール

2月18日(土) 11:30～ 参道お練り・天満宮参拝
13:30～ 公演 第1部
14:00～ 特別展「細川家の至宝」トーク
14:10～ 公演 第2部

入場
無料

太宰府天満宮では、1月には真っ先に「飛梅」が開花し、3月中頃まで紅白の梅の花と香が楽しめます。梅の花も満開のこの季節に、九州国立博物館のホールで博多の伝統芸能として、今も引き継がれる「博多芸妓」の粋で艶やかな舞いを披露いたします。



[立方](たちかた) [地方](じかた)

こま子	福 若
梅 香	つかさ
あゆみ	はと奴
和可奈	愛 佳
桜 子	



[立方]とは、踊りを舞う芸妓のことです。

[地方]とは、唄や語り、三味線や鳴り物の演奏を受持つ芸妓のことです。

また、立方だから踊りだけでいいわけではなく、芸妓は皆、踊り、唄、三味線などすべてをお稽古します。

【博多芸妓・券番の歴史】

博多の芸妓は江戸時代の中頃から存在したと言われており、昔から博多の芸妓は、おおらかできっぷがいいことで知られていました。

芸妓の取次ぎや花代といわれる出演料などの清算を行う券番ができたのは明治になってからです。

(地域によっては、検番、見番ともいいます。)

この世界も時代の流れとともに芸妓の数の減少と、声の掛かるお座敷が少なくなってきたため、昭和60年に博多と中州にあった券番が一緒になって「博多券番」が誕生し、現在は24名の芸妓が活躍しています。

主催 九州国立博物館振興財団、

共催 博多伝統芸能振興会、太宰府天満宮、太宰府観光協会

後援 九州国立博物館

お問い合わせ先 九州国立博物館振興財団

Tel 092-918-2160

E-mail zaidan@kyukoku.or.jp

雨天等の場合は内容が変更になる場合があります。